



タミオレポート

松下運送有限会社創立30周年記念式典 資料

松下民雄の 経営自叙伝

皆様 ありがとうございます。

本日は、公私共ご多用中にもかかわらず、弊社創立30周年記念式典にお運び下さいまして、こころより感謝申し上げます。

さて、本レポートは2年程前より、私の来し方の思い出や日々の身の回りの出来事などを思い出すままに書き止めた拙文でございます。

実はこれまで、極々限られた方々へ毎月お送りいたしておりましたが、内容が期せずして「松下運送の歩み」と「松下民雄の半生」を語ったものでございましたので、恥ずかしながら本式典の記念資料とさせて頂きました。

また、式典の一部では本紙を用いた小イベントもございます。
お気に留めて頂ければ、幸いです。

ありがとうございました。

タミオレポート

松下民雄の経営自叙伝 目次

ご挨拶 東日本大震災被災地への訪問のご案内	1
石巻市 旧大川小学校を訪れて	2-3
被災地への思いをあなたに そして一緒に歌いましょう！	4
被災地への思いをお伝えしました	5
「友達」という名の財産	6
本邦初!! AED のトラック搭載を実現しました	7
忘れがたい「友達」と二宮尊徳先生	8-9
豪雪が私に教えてくれたこと	10
新年のご挨拶と決意表明	11
私の夢 そしてお伝えしたいこと	12
私の DNA と朝の時間の活かし方	13
今 与えられたこの時間	14
お役立ち 上手(うま)い者便	15
母を語る	16-17
男は黙って・・・	18-19
愛猫 かこ	20
明るい 尊徳先生	21-22
「言葉」が大事	23-24
私の勝手なリーダー論	25-26
行先を示す「全体会議」	27-28
新年のご挨拶と決意表明	29-30
箱根駅伝への思い	31-32
創立30周年記念式典によせて	33
編集後記	34



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート創刊号

ご挨拶

皆様 ありがとうございます。

日頃は弊社並びに松下民雄に対し格別のご支援を賜り、重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、皆様の温かいお力添えに少しでも報いたく、ささやかな情報発信の小紙をお届け申し上げます。

内容はタイムリーな情報を盛り込んだ、少し軽めの四方山話でございます。

お気軽にお付き合い頂ければ幸いです。

以上、取り急ぎご挨拶まで申し上げます。



東日本大震災被災地への訪問のご案内

甚大な被害を及ぼした東日本大震災から4年が過ぎましたが復興の槌音の止まない被災地では、未だ23万人の方々が避難所生活を余儀なくされております。

その中ではありますが、災害発生以来続けております私の彼の地への慰問を近々に予定しております。

この4年間にあっては多くの方々との出会いがあり、目を覆うような惨状の中でたくましく復興に向けて進まれているそのお姿を拝見するにつけ、私の方がかえって勇気づけられた事も幾度となくございました。

「災い転じて福となす」の言葉では簡単には片付けられない大災害ではございましたが、度々の歴訪を通して人間の持つ限りない忍耐力や底力に感嘆し、改めて感じ入った次第でございます。

そうは言いましても、やはり未だ続く窮状へのせめてもの貧者の一灯にと志を同じくする仲間同様、この度も心ばかりの義援の志も持参する予定でございます。

今回も様々な思いの交錯する数日間になるものとは存じますが、帰りますればまた状況等ご報告をさせていただきます。

まずは、来月初旬に予定しております被災地訪問の所感までお伝え申し上げます。

ありがとうございました。





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 6 月号

石巻市 旧大川小学校を訪れて

皆様 ありがとうございます。

東北道をひた走り、5 月 17 日(日)に全生徒 105 名の 7 割にあたる 74 名が被災した旧大川小学校に立ちました。当時の惨状は既に広くメディアが取り上げていますので多くの方々の記憶に新しいところですが、実際にその場にいると抜けるような晴天の下ではありましたが、私のところに様々な感慨が押し寄せて参りました。

「天災」「人災」の論議はここでは触れませんが、いたいけな多くの命が一瞬の内に失われたのはまぎれもない事実です。

その大惨事により残された方々の気持ちを思い、私はその場に立ちつくしました。

「子供を失った悲しみを表す日本語は、ありません」

それはあまりにも悲しすぎて、「言葉」で表すことが出来ないからです。

そして、どうあがなっても気持ちの整理がつかない親御様達の最後の願いが、そこにはありました。

穏やかな雰囲気漂わせてたたずむ「お地蔵様」でした。

事故や天災でこの世を去った幼い命を慈しみ、その子たちを慰め、親に代わって育てていく地蔵菩薩に父母は全てを託したのでした。

特に、お地蔵さんを見上げてにっこりとほほ笑む子供たちの像を見た時、思わず知らず涙が止めどもなく流れてきました。

子供や孫の存在の大切さ、縁者同朋の命の尊さに対する万人の思いを感じたからです。合掌。

その後、南相馬市の被災地を回り、こころの整理のつかないまま嘗て幾度となく訪れた猪苗代町役場にむかいました。

そこで、この度の被災地訪問の主旨である「教育施設への復興支援」としての義援金を納めさせて頂き、気持ちが徐々に収まって参りました。

私は今、こう思います。

この度の大災害に対していたずらに嘆き悲しむだけではなく「今、ここに私が置かれている場」で懸命になって生きること。多くの日本人のそんな思いが結び合わされて初めて、日本の真の復興がなされることと信じております。

ありがとうございました。



石巻市 旧大川小学校前



石巻市南浜町 「お地蔵さん」



猪苗代町 猪苗代町長



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート7月号

被災地への思いをあなたに そして一緒に歌いましょう！

皆様 ありがとうございます。

前号でお知らせした私の被災地への思いは、偶然、旧知の友人も同じように感じながら、今も多くの被災者にボランティアとしてところを込めた歌をお伝えしていることを知りました。

山北町ご出身のソプラノ歌手・橋本京子さんです。橋本さんとは、もうかなり以前からのお付き合いで、この間コンサート等でその「童謡歌唱コンクール全国優勝の歌声」に魅了され、熱烈なファンの一人となって今日に至っております。

その彼女と先日市内のカフェでランチを一緒にした際、震災以来、仲間のミュージシャンと「ゼロ泊3日！」(車の中で寝る、三日間)のコンサートツアーを続けていられると伺い、大変感激しました。特に、あの大川小学校の跡地を訪れた折には、私と同じく滂沱の涙が止まらなかったそうです。その後、校庭跡で請われてアカペラ(伴奏なし)で復興ソングの「花は咲く」を歌った時、今まで感じたことのない「聴き手」と「その背後にある存在」とのものすごい一体感を感じたとも伺いました。橋本さんのプロ歌手としての感性が、被災した多くの方々、そしてそのご家族の魂の叫びを敏感に感じとったからではなかったのでしょうか。

その内、「二人の同じ思い」をご縁ある方々に是非知って頂きたい、との考えがまとまり、話しはとんとん拍子に進み、以下のように「被災地への思いを語る」ことになりました。当日は、橋本さんによる「歌唱指導」もごさいます。

早朝の時間で恐縮ですが、ご参考迄ご案内をさせて頂きました。

ありがとうございました。

記

1. 日時 7月15日(水) 午前6時30分～午前7時30分
2. 場所等 小田原お堀端コンベンションホール・ナックビル5階
0465-23-1188
小田原倫理法人会「モーニングセミナー会場」
講師 松下民雄 ・ ゲスト 橋本京子
3. 受講料 無料
4. 申込み 松下民雄迄ご一報下さい。
0465-45-0666(松下運送(有)内)
090-3318-1298
5. 駐車場 施設内にはございません。近隣の駐車場をご利用下さい。



以上



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 8月号

被災地への思いをお伝えしました

皆様 ありがとうございます。



前月でご案内の「東日本大震災への思いを語る集い」では、7月15日(水)の早朝にもかかわらず市内ナックビル5階の「小田原倫理法人会モーニングセミナー会場」には、予定の70席を超える、86名の方々に集まりました。

限られた時間ではございましたが、これまでに訪問した各地のこと、そして多くの方々との出会いについての思いの丈をお伝え申し上げました。

また、友人の橋本京子さんの歌唱指導による「花は咲く」「故郷」の合唱では、お集まりの皆様のこころを込めた歌声が、彼の地にもしっかりと届いたように感じております。

さて、改めて思い浮かべますと、被災地支援の物資搬入の折々には様々な出会いがございました。

一家全員を失い着の身着のまま猪苗代町に逃げてこられた寒さに震えるお年寄りに私の防寒具を着て頂いたことは、今もって鮮明に覚えております。

また、「悲しみを絵に描いたような不幸である両親を津波で失った孤児の皆様」への物心両面でのお支えは、わたしにとって今も続く大切な交流となっております。先日もその中のお一人から「自分も大人になったら、小父さん（私）のようになりたい」との嬉しいお便りを頂き、わたし自身が感激致しております。

勿論、考えさせられることも多々ございます。例えば、この度の大川小学校跡地で、丁度居合わせた若者に声をかけた時のことです。その方は、多くの友人を一瞬の内に失ったショックから未だ立ち直れず、自らにも回りの人々にもすっかり心を閉ざしてしまっている様子に触れ、この未曾有の天災が残した傷あとの深さを思い知らされました。

私達は、「今のこの平穏な状態が当たり前だ」と思っているのではないのでしょうか。

大震災の直前まで、誰もが「昨日と同じ今日」を当然のようにおくらっていたのです。

おりしも「戦後 70 年の節目」を迎えるに当たり、平和の尊さをつくづく思うとともにそれが何かのきっかけであっけなく無くなってしまう可能性のあることを考えるにつけ、今、私の出来ることに、これからもしっかりと向き合って参るつもりでございます。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 9 月号

「友達」という名の財産



皆様 ありがとうございます。

先月の「小田原倫理法人会モーニングセミナー」にご出席の方には、耳新しい話しではありませんが、本日は私の身の上のひとコマをお伝えしたいと思います。

かれこれもう 30 年近く前にさかのぼりますが、N 社という運送会社から文字通りの「徒手空拳」で独立。その時の私の財産といえば、中古の軽四輪車が一台とその頃では大変珍しかった「鞆サイズの携帯電話」だけでございました。

あれから今日まで、有難い程の多くのお客様や協力会社様、働き者の従業員様に恵まれ、お陰様で松下運送はお取引先様の拡大を経て、緑ナンバーを取得し、産業廃棄物収集運搬の許可、「グリーン経営」認証、そして「G マーク」認定へのキックオフと、日々ひたすらに進んで参ることが出来ました。

それでも、会社の発展とは裏腹ではありますが、松下民雄個人の財産といえば、私は今もって「借家住まい」でございます。

但し、世間様でいうところのカタチある財産をあまり持たない私ですが、唯一の誇りとして、本当に多くの「友達」という名の財産を得たことに、私自身が大変満足しております。

お客様・協力業社様・各種団体の方々やプライベートな知人に至る、沢山の「友達」。

「お客様」を友達というのは「どうか」と思われるかもしれませんが、夫々の立場を超えて、「一緒にいて楽しい」「お互いに高め合うことができる」というククリで考えた時、私にとっては「大事なお客様」という名の、やはりありがたい「友達」でございます。

一例としてですが、弊社には小さなお客様応接室兼休憩室がありますが、朝から夕方までいつも多くの方で賑わっております。「友達」の急なご来社で先客とかち合う場合もありますが、出来る限り「社交の場」としてご提供しておりますので、何とぞご遠慮なくお越し下さい。

さて、最も大事な「友達」について、お話しをさせて頂かなくてはなりません。

私のつれあいのタ起子です。所帯を持ってからこのかた、自営業の妻として「ほとんど 365 日休みなし」で共に歩んで参りました。

多くの方にはお見せしませんが、「日本で一番の亭主関白「県」の鹿児島出身の私」ですので、家にあっては「かなり」なものでございます(自慢できることではありません。若い方は真似をしないように・・・)が、そんな私を毎日しっかり支えてきてくれた、文字通り「糟糠の妻」です。

「言われてみれば、そう通り！」の家内のアドバイスが、いつも私をうならせます。

この「同行二人」の道行きはそろそろ中継地点かと思いますが、いずれ私が引退した時には、一緒に日本中をのんびりと旅しようと、今から楽しく語り合っています。

マイ・ベスト・フレンド！ タ起子 ありがとうございます！



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 10月号

本邦初!! AED のトラック搭載を
実現しました



皆様 ありがとうございます。

今日のお話は、チョット自慢話しめいていて恥ずかしいのですが、少しばかりお付き合い下さい。

先日、AED（自動体外式除細動器）を購入した商社様からも「おそらく前例の無いこと」と言われましたが、この度、弊社のトラックにこの救急救命機器を搭載することになりました。

AED 設置については、近ごろでは、公共施設や駅頭等ではよく見かけるようになりましたが、日々全国各地を走行し、特に高速道路での緊急事態に遭遇することの多いトラックに載せてあれば、火急の救命活動にお役にたつのでは、と考えました。

勿論、ただ単に AED を使って頂くのではなく、私を初め全てのドライバーが小田原消防署認定の応急手当普及員様による「救急蘇生法講習」を受講しましたので、救急車を待つ間の心肺蘇生を行うこともできるようになりました。

私が考えております会社経営のポイントのひとつは、「世の中のお役にたつ」です。

私はいつも「地域社会への貢献」あつての松下運送であると固く信じておりますので、少しでもこの思いを実現できればとのささやかな願いの一施策でございます。

何とぞ、本趣旨ご賢察の上、宜しくご理解を賜りたくお願い申し上げます。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 11 月号

忘れがたい「友達」と二宮尊徳先生

皆様 ありがとうございます。

先々月号でお話しをさせて頂いた「友達」というと、私にとってどうしても忘れられない思い出がございます。しばしの間お付き合い下さい。

もう、かれこれ 20 年近く前のことでした。大事な会合があって小田原市内を急いでおりました私が、丁度〇病院の近くを通りかかると、「松下さ〜ん」と、か細い声で私を呼ぶ方がございました。私は一瞬その声の主が誰だか分かりませんでした。そして、よくよく見てみるとそれは、髭はボウボウ、着ているものもヨレヨレの、道路の端にへたり込む変わり果てた姿の以前勤めていた会社の友人のN君でした。

「N君！」と駆け寄り、その場で話しを聞いて私は啞然としました。本来がやり手のセールスドライバーではあったN君ですが、左前になった会社の中で生活が困窮し、従来の賭け事好きが高じて生活が乱れ、とどのつまり家庭崩壊の憂き目を招いたとか。生きる気力も何もかも失い、もうホームレス同然の姿で、病院の近くにいれば医療関係者が何とかしてくれるだろうと考えていたところで、偶然通りかかった私に思わず声を掛けたとのことでした。

もう、それからは「何とか、しなくては」との思いがこみ上げてきて夢中でした。

予定の会合をキャンセルし、近く中華料理店で、2 日間も何も口にしていけないというN君が2人前の食事を頼張るのを見ながら、この友達を助けたいとの思いで一杯でした。そこで、ポケットにあるなけなしの金を全て渡し、まず風呂と床屋を使わせ、つるしのスーツを用意し、もう翌日には旧知の産廃業者様への就活に同行していました。結果、首尾よく採用、私は一安心でした。

それから数年、私は彼のことをすっかり忘れておりました。

ある日突然、会社に高級外車に乗った仕立てのいいスーツ姿のN君が、再婚した奥さんとお子さんを連れてお礼に見えたのでした。よくよく「驚かすのが好きな友達」でした。

でも、本当にうれしく思いました。

目の前にいるのは、まぎれもなく見違えて出世し、取締役にもなった幸せ一杯のN君でした。

「尽くして、忘れる」……。私はそれでいいと思っています。

どうやら、私の生まれ持った DNA と尊敬してやまない二宮尊徳先生の教えが、この松下民雄の生き方をつくってきたように思います。

そして、生まれ故郷の鹿児島からはるか彼方の尊徳翁の出生地に、いつの間にか移り住んでいたことを考える時、この偉人との奇しきご縁に心底驚かされます。

私の好きなのは、尊徳先生が箱根湯本の旅籠の浴槽で弟子たちに説いた逸話です。

「かき寄せたお湯は、いずれまた遠ざかる。押し出したお湯は、必ず帰ってくる」

この「奪って損あり、讓って益あり」の教えが、無条件に好きです。

実は、拙宅の庭の正面には「二宮金次郎像」がございます。

私は朝夕、この像を仰ぎ見ながら自らの戒めとし、これからも精一杯出来る限り「与え、譲る」商売道に励んで参る思いを強くしております。

ありがとうございました。





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 12 月号

豪雪が私に教えてくれたこと



皆様 ありがとうございます。

「こんな大雪の中、荷物が運べる訳がないじゃないですか！」と、一方的に言われたとのお客様からのコンプレイン(苦情のお叱り)に、私は思わず受話器を握ったまま立ちすくみました。それは、もうかれこれ 20 年近く前の真冬のことでした。その時、中京以西が豪雪の情報は既に入っていましたが、大事なお客様からのお預かり品を任せた下請け業者の「無責任な言動」に、元請けとしての責任の重さと申し訳なさで、その晩はまんじりともしせずに、夜が明けるのを待ちました。

「兎に角、お客様にお会いして、お詫びをしたい」。翌朝私は、始発の下り新幹線に飛び乗りました。案の定、米原で新幹線は動かなくなりました。

「歩こう!」。こうゆう時の私は、どうも後先を考えない方で、吹雪の国道を腰まで積もった雪に足元を取られながら歩き始めました。目的地は彦根でした。

雪は一向に止む気配の無いまま、履いていた革靴はグチャグチャで歩ける状態ではなくなりましたので、沿道のホームセンターで長靴に履き替えました。着ていたスーツは汗みどろ、レインコートも雪ですっかり濡れてしまい、小田原のお土産を小脇に抱えたままどれ位歩いたのでしょうか。すっかり日も暮れて、もう時間の感覚すらなくなった頃、ようやく目的地の I 社様に着きました。10 時間の雪中歩行でした。

倒れ込む様にして玄関に入ったところ、「やあ、やあ、よくぞ。この大雪に、ここまで!」との声で工場長様に出迎えて頂き、ことの次第をお伝えした時、自然とお客様のお気持ちが和らいでいくのを感じ、私自身の昨夜来の気持ちの乱れがようやく収まって参りました。

この事を通して、私の心の中には「まごころをお届けする」松下運送の基本が確かに根付いてきたように思います。以来、目に見えない何かが吹っ切れたように、少しずつ会社が伸びて参りました。

今、ビジネス世界では「お客様【満足】度」から、「お客様【感動】度」にその目標の尺度が変化していると、先頃の社内研修で伺いました。

本当の意味での「感動」は、決して自らの能力や知識を出し惜しみせず、「今・目の前」で出来得ることに、力の限り当たることで実現するものでしょう。

小手先の器用さや受け売りの理屈では、お客様に【感動】をお伝えすることは出来ません。自らの殻を破らなければならないような試練は、必ずやってきます。

その時こそ、飛躍の大チャンスとそれを受入れ、乗り越えることが大事と心得ています。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート新年号

新年のご挨拶と決意表明



新年 明けましておめでとうございます。

新年を寿ぎ、皆様のご多幸とご健勝をこころよりお慶び申し上げます。

皆様 ありがとうございます。

輝かしい年明けにあたり、日々のお祈りについて一言述べさせていただきます。

さて、私は毎月一日には、相模一之宮寒川大明神様（通称「寒川神社様」）へのお参りを常としております。ご皇室を初め歴代の武将の崇敬を得た「寒川様」は、八方除けで知られ今では関東屈指の「パワースポット」としても多くの参拝者で賑わっております。

私が初めて寒川様に参りましたのは、30 年近く前の創業時、最初の営業車の安全祈願の為でございました。その時、厳かで清らかな雰囲気魅せられた私は、爾来毎月欠かさず安全祈願と商売繁盛のお祈りを続けさせて頂いております。

お蔭様にて、今日では多くのお客様のご支持を得て「まごころをお届けする」松下運送と相成ることが叶いました。

ありがとうございます！

ところで、私は寒川様へのお参りを続ける内に、ある時「お祈り」の内容が一点に絞られてきたのに気が付きました。

それは、最高の祈りは、「感謝」であるとの思いでした。

自らの足りないことを何とかして欲しいと泣きつくのではなく、既に与えられている多くの恩恵に対して「ありがたい」と感じ、感謝の言葉を捧げることでした。

事実、中古の軽自動車 1 台、携帯電話 1 つだけで始まった松下運送が、今日では多くのお客様からご注文を頂き、信頼する協力会社様と仕事熱心な従業員様によって日々事業を続けさせて頂いていることは、感謝以外の何物でもありません。

また、一方神仏を敬い、且つ神仏に頼りすぎないことも肝に銘じております。

運送業の常としての対物事故、物損事故等の根絶を目指し、会社の安全管理の徹底をより一層推進するために「安全性評価事業（G マーク）」の年内認定取得を目指して、現在具体的に社内体制の強化を図っております。

これにより、一昨年暮れに達成した「グリーン経営認証取得（環境保全）」と相まった「安全とエコ」の二本柱に「まごころ」を加えた「三本柱」で、皆様にご奉仕することを図って参ります。私はこれを、密かに「松下運送のささやかなトリプルスリー」と任じ、より一層のサービス向上に努める所存でございます。

以上をもちまして、松下民雄の新年の決意表明とさせていただきます。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日ありがとうございます！】

タミオレポート 2月号

私の夢 そしてお伝えしたいこと



皆様 ありがとうございます。

先年の大晦日に会社の車庫を見回った際に、急に 30 年前の創業時のことが思い出されて参りました。

その時、居並ぶ大型車他の 10 数台のトラックを見て「よくそこまで来た・・・」というのが偽りのない、正直な感慨でございました。

以前も少し触れましたが、それまで勤めていた会社の先行きを懸念して「今が潮時！」と少しばかりの蓄えを元に中古の軽四輪車 1 台で始めた松下運送ですが、地縁血縁の無い土地柄にあって、頼りになるのは貨物運転手時代にご縁を頂いたお客様のご支援と、この身一つと家内の応援だけでした。

いろいろなことがありました。特に関西方面への仕事では、創業時の資金繰りの困窮する中で「往復の燃料代しかない」ということもよくありました。お客様のお預かり品をお運ぶする訳ですから、大事なものは「車と燃料」です。なけなしの 10,000 円札を懐に忍ばせ何くわぬ顔で出発しても「高速代」もありません。「オール一般道」で片道 10 時間を、ご飯は頂かなくても、燃料代は最優先。中には、家へ帰れなくて「2日間食事なし」ということもありました。

また、「一日で京都往復 2 回」「一日で東京往復 3 回」の離れ業も、苦しいながらも今では懐かしい思い出となっております。

それでも私には、いつの日か「小田原に松下運送あり」との夢がございました。

私は、極々普通の人間です。但し、小学校 3 年の頃にどういう訳か突然、「自分は行く行くは『運送会社』の社長になるんだ」との考えが浮かんできたのです。以来、故郷の鹿児島を離れ、組立工場や旅館の板場、運送会社などで働きながら、この夢だけは片時も忘れずに抱き続けて参りました。

それから、自分で骨身に沁みた事からは活かしたいと、常々肝に銘じてもおります。あの頃は、燃料代を節約するために、真夏や真冬でも空調はほとんど使いませんでした。当時の辛さを考えると、ドライバーさんへは適度な温度管理を率先して勧めております。体調を壊してまで我慢するには及ばず、は私の信念でもあります。

さて、今日のお話しは、なにも苦労話を知って頂くためのものではありません。

私は、創業からの経験が全て、今日の「まごころをお届けする松下運送の屋台骨」となったと実感していますので「夢を忘れず努力する限り、どんな苦労も全てはプラスに転じる」との体験を、淘汰の時代と言われる今を生きる、特に若い方々にお伝えしたいとの願いがあるからでございます。

それにつけても、不思議なのは、幼少時の「会社を起こすのだ」というあのひらめきです。このことについては、次号(3月号)にでも、お話しできればと思います。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 3 月号

私の DNA と朝の時間の^い活かし方



皆様 ありがとうございます。

さて、前号でお知らせした、幼少時に突然ひらめいた「会社を起すのだ」という「思い」に関してですが、正直に申し上げれば、はっきりとした理由は今もってよくわかりません。但し、どうも私自身が生まれ持った「ある特殊な傾向の DNA」の為せるわざなのかも知れません。

話しは飛んで、私の「朝の時間の活かし方」をお話し致しましょう。

私は生来早起きで、大体午前 4 時には自然と目覚めます。

それから、風呂場で身を清め、松下家のご先祖様に御水を差上げ、父母そして親しかった方々をお呼び出し、今日一日の平安無事を祈願致します。その時ですが、私の瞼の裏にはその方達の生前の姿形がまざまざと、まるで生きているかのように現われて参ります。このことは、私自身にとっては全く当たり前の事で、多くの方々も同じように見えるモノとばかり思っていました、どうやらそうではなさそうでした。

兎に角、お相手が生きているかのように「見える」のですから、いきおい、祈りは真剣にならざるを得ません。まず第一は「今ここで、イノチを頂いている真実（こと）」に。第二に「ご先祖様の温かいお守り」に。そして「お客様・協力会社様・従業員様」に、と。感謝の祈りが続きます。

それから、今日一日の稼業の安全をお祈り致します。

その後会社に出社し、お祀り申し上げる天照皇大神宮様・寒川神宮様・豊川稻荷様・故郷から頂いた氏神様・二宮尊徳翁と、全ては「現実と見紛（みまご）う生き生きとした御姿」を心から拝して、同じく感謝の祈りを捧げます。

あとは、全てをお任せ申し上げ、今日一日の目の前の仕事を精一杯やることをお約束して約 1 時間の朝の祈りが終わります。そうする内に不思議と自分の進むべき道、会社の判断すべき方向が「見えて」くるのです。

このような毎日を続ける間に、「今日の松下運送」が自然と出来上がって参りました。

「ありありとイメージし続けること」が、誓願成就の為の鉄則。その気持ちで、全てに感謝して、全てを託す。後は、ひたすら努力あるのみ。

実は、郷土の先輩経営者である京セラ創始者の稲盛和夫様のご著書「生き方」の中にも同ような記述がありました。

「物事成就の母体は強烈な願望である。・・・思いつづけ、考え抜いていると、実際に結末が『見えてくる』ということが起こる。」(P44)

思い起こせば、小学校 3 年の時のあのひらめきは、その「発端」だったのかも知れません。事実、あの時のわたしにははっきりと「見えて」いたのでしたから。

勿論、毎日の業務は、文字通り「問題だらけ」の日々です。気を緩める事などできません。

これからも、電話もかからない、お客様とのお約束も無い、この早朝の時間を有効に活かして精進する覚悟でございます。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート4月号

今 与えられたこの時間



皆様 ありがとうございます。

今から30年近く前、私がたった独りで始めた「松下運送」の第一歩を記す「プレート」が会社の入口に飾られています。私の知合いが、前途を祝して寄贈してくれました。

「この宝物」を見る度に、来し方を思い、行く末への新たな決意がみなぎってきます。

当時の勤務先の先行きを懸念しての独立でしたが、今でも忘れもしませんが、夏のボーナスの支給日直前の6月末日をもっての退職に、周囲からは「何故」との声がしきりでした。

文字通り「退路を断つ」を実践した背景には、ものには「頃合い」があるとの私の直感と信念がありました。「独立する」と心に決めた限りは、いつまでも「古い環境」に身を置くことはせっきくの決意にブレーキがかかる、いさぎよくさっさと始めようと思いました。結果的にこれが幸いで、ボーナスこそもらえませんでした。少なくとも10数年勤めた会社から僅かながらの退職金を得ることが出来ました。後で聞くと、その後残った方々へはかなりきつい労働環境が待っていた、とのことでした。

さて、創業者の常で「創業時の苦労」は一通りではありませんでした。「銃後の守り」の家内は、事務仕事と近所の工場勤めの掛け持ちで支えてくれましたが、以前も話しました通り、退職金を元手に中古の軽四輪車と事務所代わりの大きな(鞆サイズの)携帯電話を買った後は、この身一つが唯一の頼りでした。そして何よりも大事なものは「今、与えられたこの時間」でした。寝る間を惜しんで「頭を使え、身体を動かせ」と自らに言いかけ続けました。

お客様から現金で頂いた運送代で、少しでも安い「燃料チケット」を購入し、あとは兎に角「金になるものは、何でも運べ」です。寝起きは、車の中。食事は携帯コンロで沸したお湯で即席麺を作り、駐車場の片隅で。そして、フォークリフトもないこの時期、「小錦クラス」の重量物も人力で荷揚げ・荷下ろしです。若かったから、出来たんですね(笑)。

「365日休み無し」は経営者の常ですので、決して私一人のことではありません。知合いの社長さん方の人生も、大体似たりよったりです。

今日、私が言いたかったのは、有り余った時間より「わずかな時も大事に使う」ということです。人間暇(ひま)だと、ろくなことはありません。忙しいと、本当に大事なことが見えてきます。

私はギャンブルはやりませんし、大切な友人との語らいには時間を惜しみませんが、人は「仕事」や「努力」を通じて気付き、成長する、が私の信念ですので、寸暇を惜しんで自己成長を目指している人間が大好きです。知人や従業員には「仕事や仕事以外の読書」も大いに勧めています。

今、創業30周年を控え、松下運送の「第二の創業の時」と心得ています。そして、「Gマーク認定取得活動」を初め、社内の業務体制の強化、組織の再編成を断行しています。

懸命に生きている方々が、生き生きと働く「より良い松下運送」を目指すためです。

どんな世界でも、毎日があたらしく変わり続けている、が「成長と幸せ」の証しです。

今日の私の「拙い思い出し話」が何かの参考となってくれれば、幸いです。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 5月号

お役立ち 上手(うま)い者便



皆様 ありがとうございます。

会社を始める迄には、沢山の方々や幾多の職種との出会いがございました。

それら全てが、松下運送のスタートを切るために欠くことの出来ない「財産」であったと思います。

特に私にとっては、当時国内屈指の大手運送会社 N 社での貴重な経験が、懐かしくも鮮やかに思い出されます。

時の O 社長は稀代のアイデアマンで、様々の新趣向を打ち出していましたが、特に全社一丸となって取り組んでいたのが【産地直送・うまいもの便】の展開でした。全国各地の名産品を直接、お客様からご注文を頂き、お届けするもので、今や全盛のネット販売やアマゾンのない当時では、正に画期的なアイデア商品でした。

そして、販売担当としては 20,000 人の全社員を任じ「全員がセールスドライバー」が合言葉でした。

兎に角、売って、売って、売りまくれの号令でしたが、生来商売好き・人好きの私ですので、あまり苦痛も感じることなく、配達先のお客様への果敢なアプローチを続けた結果、年に一度の表彰では常に上位を飾ることが出来るようになりました。

仕事は、積極的に当たるに限ります。そして「その結果が必ずついてくる」という実感が、次のステップへのやる気を倍増させました。そのステップ・バイ・ステップの延長線上に「運送会社の立上げ」が自然と現れていました。

ある日、気が付いたらいつの間にか「社長になっていた」が実感でした。

何事も勢いづく、本当に大きな力になるものです。何度も申しますが創業時の苦労を一気呵成に乗り越えられたのも、そんな背景があったからかも知れません。

丁度今、松下運送では「第二の創業」を期して「全員がセールスドライバー」を目指しております。

「新規のお客様」や「帰り便」の獲得など、全員周知のモットーは【すっきり(低料金)・素早く(速攻性)・セイフティー(安全性)】の【3Sセールス】です。

これからは、松下運送のドライバーを見かけたら「セールスマン」が来たと思ひ下さい。わたし達は、お客様のご要望に最善のアイデアと精一杯の頑張りです必ずお応え致します。

何とぞ、マツシタの【お役立ち 上手(うま)い者便】を奮ってご利用下さい。

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 6 月号

母を語る

皆様 ありがとうございます。

私の一日は、玄関先の二宮尊徳翁の御像にお参りすることから始まります。お参りを欠かさない事の発端は、今から 60 有余年前の、私が 5 歳の頃にさかのぼります。それは、母が幼い私を毎日託児所に預けるため、勤め先の病院に向かう途中の小学校の校庭にある尊徳翁の御像に、必ず手を合わせお参りする姿でした。

そんなある日のこと、母がいつものお参りをしながら「あなたもいつかは尊徳さんのような立派な人になりなさいね」と言ったことがございました。それを聴いても、幼少の私にはその意味が良くわかりませんでした。それでも小学校に入り、翁の偉大さを学び、初めて母の言っていたことの意味を知り、「損して得取れの（尊徳さん）」と口癖のように語っていたことを今は懐かしく思い出します。

あれから幾星霜、私がこの偉人の生地である小田原の地に住み着いたのも、偶然とは思えない不思議なご縁であると思います。そして、私が 15 年程前に当地の奉仕団体に入り、労働奉仕や街頭募金等出来得る限りの奉仕活動を行っておりますことは、幼い頃の母の言いつけを大事に守ってきた結果であると改めて思います。

母サトは明治 41 年鹿児島県鹿屋（かのや）に生まれました。一家眷属がほとんど教育者という家系で、母も学校で栄養士の資格を得、当時では珍しいキャリアウーマンとして働いておりました。その後、縁あって父松下義男に嫁ぎ、私を含め 5 男 2 女の子宝に恵まれました。

生来働き者の母は、苦しい生活のやり繰りをしながら、家では亭主関白の父に仕え、子育てのかたわら病院の栄養士として、一人三役を愚痴一つ言わずにこなしておりました。

そんな中であって、私にとって忘れられない母との懐かしい思い出の一つがございます。それは、月に一度のお給料日に末っ子の私と三歳年上の兄省三郎を連れて、市中の食堂で外食をすることでした。デパートもファミレスもない時代でしたが、そこで頂く「ライスカレー」の味は、今もって忘れることができません。その後、近くのお菓子屋で 5 円程のキャラメルを買ってくれたのです。大はしゃぎで喜ぶ私と兄を眺めながら、母は芯から嬉しそうな、全てを包み込むような温かい優しい笑顔を見せておりました。

慈母観音。

長じて各所の寺院にお参りする度に、その時の母の笑顔と全く同じ表情を、そこかしこの観音様に見出しては、何度もハッとする事がございました。

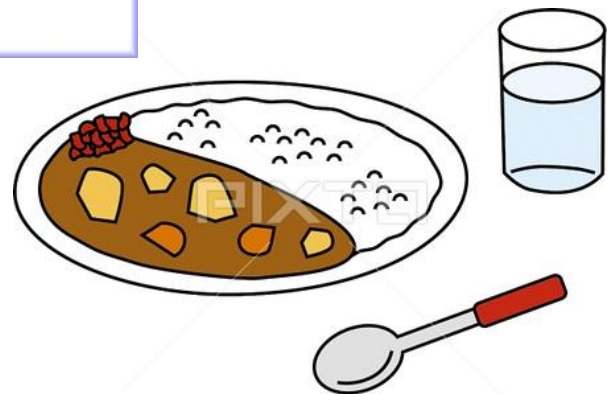
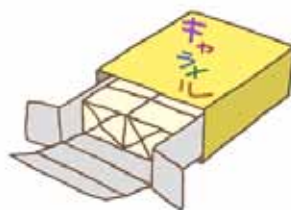
そして後年松下運送を起こした私が、会社経営で遭遇した三度の危機の中でも最も困窮した時、一度だけ故郷の母に金の工面を願い出たことがございました。その時母は何も言わず、コツコツと貯めた 200 万円という大金を差出してくれたのです。そのお蔭で何とか苦境を脱した私は、一年後に全額を返しに母の元を訪ねました。

その時、母はいつもの優しい笑顔で「上の兄二人は大学に行かせたが、末っ子の民雄にはどうしても進学させられなかった。それが、一番辛く、悲しかった。だから、これは母のせめてもの償いとおもって欲しい」と言って、どうしても受け取ってくれませんでした。

私の仕事・人生のルーツには、間違いなく「母の存在」がございました。

それは「与え、尽くして、忘れる」母の人生から受けた最高の教育の賜物であったと思います。

ありがとうございました。



pixta.jp - 5218425



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 7 月号

男は黙って・・・

皆様 ありがとうございます。

前号でお知らせした母・サトのことで、思いの外、多くの方々よりお言葉を頂きました。そして、本日は松下民雄のもう一方のルーツである父義男と、母との関わりを思い返してみたいと思います。

父は、明治 41 年鹿児島県の桜島で生まれました。当初の平穏な日々の中、大正 3 年の桜島大噴火で義男一家の生活が一変します。鹿児島本土との距離 400m を埋め尽くし、現在の陸続きとしたあの天災で、一家は対岸の佐多岬の鹿屋（かのや）に逃れ、父はそこで育ちました。

成人後、同地の鹿屋航空隊に勤務し整備士として働き、その後、縁あって神戸のガス会社に勤務、そこで同じ鹿屋生まれの母と出会いました。それから終戦を機に鹿児島市武町に移り住み、生涯をそこで過ごすこととなります。

父のことを語る時、まず頭に浮かぶのは、かつて一世を風靡したコマーシャル「男は黙って、サッポロビール」です。父は寡黙で厳格。食事の時も、大好物の焼酎を每晚 2 合たしなむのを唯一の楽しみとしておりました。因みに、近所の酒屋に飛んで行き「量り売りの焼酎」の買い出しをするのは、決まって末弟の私の仕事でした。

5 男 2 女を育てる中で、苦労も多かったと思いますが、生業の鮮魚業の店売り引き売りを黙々と続けておりました。当時の食事は決まって「麦飯とさつまいもの雑穀」、白米を頂くのは盆と正月だけです。それでも、兄二人を大学に行かせたのですから、その苦労は並大抵ではなかったと忖われます。

父のことで今思い返しますのは、親としての子に対する愛情表現や思いやりの部分は全て「母に譲って、自分は黒子に徹していた」ように思うことです。

鹿児島の男と言えば、「男尊女卑」がその代名詞ですが、この言葉が意味する本当のところは「男は強い者。だから弱い女を守る者」であるのです。

生涯、親としての「美味しいところ」を黙って妻に与えた。そんな父には、男としての誇りと強さがあったように、79 歳で亡くなったその年に近づいてきたこの頃、何故か感じてしまいます。

薩摩隼人。

「ぼっけもん」といわれるこの言葉に象徴されるように、一本気で融通が利かないともいわれ、理屈を言わず即実行に移す行動力が、父にはありました。

そしてこの傾向は、意外でしょうが「この私の中」にもあるように、よく感じます。

幼い頃、運動会に駆けつけてくれたのは母でした。買物や食事に連れて行ってくれたのも決まって母の役割でした。

そんな日々の出来事を、父は晩酌を傾けながら、感心を見せるのでもなしに、心の中で家族の楽しんだ姿をなぞらえ、密かに子供達の成長を喜んでいた様につくづく思います。

さて、かような父が生涯でたった一度だけ、正面切って父親としての思いを私に届けてくれたことがございます。それは、1964 年発行の東京オリンピックの記念硬貨です。この、何時にもない珍しいプレゼントは、父への万感の思いがこもった記念品でもあります。

寡黙な父のイメージと、どちらかと言うと「多弁」な私とのギャップを感じる方もあるかも知れませんが、実はこう見えても「お知り合いとの非公開の約束事」は、どんな事があっても、例え口が裂けても口外をしない「口の堅さ」には、絶対の自信がございます。

このことは、父から受け継いだ「寡黙の DNA」に懸けてもお約束致しますので、秘密のご相談事がお有りの際は、安心してお声掛け下さい。

従って、ビジネスや人生上の大事な決断では、信頼おける方へのご相談はよく致しますが最後は「黙って、決める」のが、私の身上でもあります。

ありがとうございました。



1964 年発行の東京オリンピックの記念硬貨

編集後記

G マーク認定取得作業に追われ、原稿がおくれました。事務の K さん、発送に間に合いましたか？・・・では、安心して、今晚は美味しく「ビール」を頂きます（笑）。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 8 月号

愛猫 かこ



皆様 ありがとうございます。

今朝、私にとってかけがえのない存在とも言える我が家の愛猫の「かこ」が、息を引き取りました。18 歳になろうとする年齢は、人間で言えば 100 歳以上とも言えましょう。今まで病気ひとつせず、家の壁で爪とぎをするでもなし、食事は市販のキャットフード以外は決して口にしない、勿論、食卓に飛び乗って刺身をおねだりすることもない、文字通りお利口さんのネコちゃんでした。

ところで、今月のタミオレポートでこの猫について語らせてもらうのは、少しばかり「特別な意味合い」があるからでございます。

実は、「かこ」と共に過ごした 18 年間は、私にとっても特別な思いの詰まった時期でもあり、その中で数々の思い出には、少なからず「かこ」の存在がついて回りました。

創業して 10 年を過ぎ、松下運送はお客様の温かいご愛顧を頂きながら、「みどりナンバーの取得」を経て、ようやく「運送業としての体裁」を整えつつある頃でした。傍目には順調に見えていたようですが、内情は正に火の車。資金繰りに追われながら、私はドライバーとして乗務員と共に日本中を駆け回る日々でございました。

当時は又、会社の存続を揺るがすような重大な問題が時々起きました。中には「もう、これまでか」と思うような事態もあったのでした。

トラブル解消の為深夜まで飛び回り家に帰る頃、疲れて寝入っている家内を起こさないようにして、静かに我が家にたどりつくと、私の帰りを待ち焦がれたように、玄関先で私を迎えてくれたのが、「かこ」でした。

一日として、欠かすことなく・・・必ず！

「かこちゃん、今度こそ、もう駄目かもしれない。お父さんは、本当に疲れたよ！」

外では誰にも言えない愚痴とも弱音ともつかない「本音」を、膝の上の「かこ」に囁くのでした。そんな時の「かこ」は、私の目をじっと見据えながら一声「ニャー」と応えてくれるのです。

その時、私の萎えてしなびた気持ちには、得も言われぬ安らぎと慰めが訪れてくるのでした。

事が好転する訳でもありません。明日には同じ問題に向き合うのは分かっています。それでも「いたたまれない気持ち」を直に受け止めてくれた「存在」に、正直いつも癒されました。

勿論、現実的には、お得意様のありがたいお支え、協力会社様の嬉しいご支援そして従業員様の懸命な働きのお蔭で窮地を脱したのですが、ビジネスの山坂を超える途中の私の心の中には、確かに「かこ」との関わりがあったのも事実です。

当然、楽しい思い出もたくさん残してくれました。お客様とのお付き合いが深夜に及んでも、やはり、帰宅を待ってくれる嬉しい「かこ」の鳴き声が、いつも玄関先に鳴り響いておりました。

一日の仕事の疲れが吹っ飛び瞬間でした。

私にとっては、人生の大事な時を共に歩んできた「特別な存在」の一つでした。「ペットがその人と会うのは、以前からの約束事」と言われて、やはり無条件で納得してしまいます。

創業 30 周年を間近に控え、私のやるべき事はまだまだございますが、それら乗り越えた彼方のいつの日か「かこ」に再び巡り会う時には、かつてのように語り合いたいです。

そして、きっとすり寄って出迎えてくれる「我が娘」に、こう伝えるつもりであります。

「かこちゃん お父さんはお前との約束を守り、あきらめず、逃げずに、やり通してきたよ。

・・・ 待たせたね。 かこ！ ただいま！ ・・・」

ありがとうございました。



松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 9月号

明るい 尊徳先生

皆様 ありがとうございます。

タミオレポートというと、以前も挙げさせて頂いた二宮尊徳先生のことを差し置く訳には参りません。

尊徳翁のひた向きで、その生涯にわたる一途で献身的な人生に触れる事で、私の中の「ご奉仕のこころ」が目覚め、自然と具体的な活動が陽（ひ）の目をみるようになりました。

お客様・協力業者様・従業員様への精一杯の事業活動、ありがたい出会いによって導かれたご友人、そしてここから発する無私のご奉仕先と、それら数多くの方々への「献身・奉仕の心」の多くは、翁との出会い無くしては成り得ませんでした。

先生の為人（ひととなり）については、多くの著名人が沢山の書物等で示されていますので、浅学な私の及ぶところではありませんが、私が近頃、これぞ二宮尊徳の真骨頂（しんこっちょう）として挙げるとすれば、その「明るさ」にあると思います。

翁は、疲弊した農村復興の為に田畑仕事の最中に「唄を歌う」ことを奨励しました。みんなで共に歌うことで、疲れを癒し、働くこと・生きることを「楽しむ」ためです。

そこには、人生の明るい面を見続けようとする楽天主義がうかがえます。

私の言う「明るさ」とは、何もかも冗談めかして笑いのネタにしたり、意味もない馬鹿笑いで座を盛り上げようとしたりする「お笑い芸人風」とは少し違います。

それは、人生につきものの「待つこと」「耐えること」を知っていたり、人の心の痛みを感じ「思いやり」を持つことを当然のように行ったり、小さなことの積み重ねを大事にする（正に「積小為大（せきしょういだい）！」）などの、「生きることへの懸命さ」そのものです。

そんな人を見ると、私には「明るい！」と映ってきます。

おそらく、その方の発する「金色のオーラ」を直（じか）に感じるからだと思います。

そのことから言えることは、そのような人の周りには自然と沢山の人が集うようになりその方の明るいムードメーカーとしての人柄によって、組織・地域が見事に活性化されることになるのではないのでしょうか。

この希代の農民思想家の「仕事を起こし、地域を再興し、人を育て、文化を高めた」人生そのものが、その事をはっきり証明しています。

私の会社では「松下運送で働くみんなの心得」を、朝礼・会議等に際し参加者全員で唱和しておりますが、その第一に「明るく 元気に 挨拶しよう」を掲げたのは、そんな願いを込めているからです。

「明るさ」は急には伝わらないかもしれませんが。

時間をかけて、じっくり取組んでいる内に、素直な心が芽生え、いつの間にか「気がついたら、そうになっていた」がいいように思います。

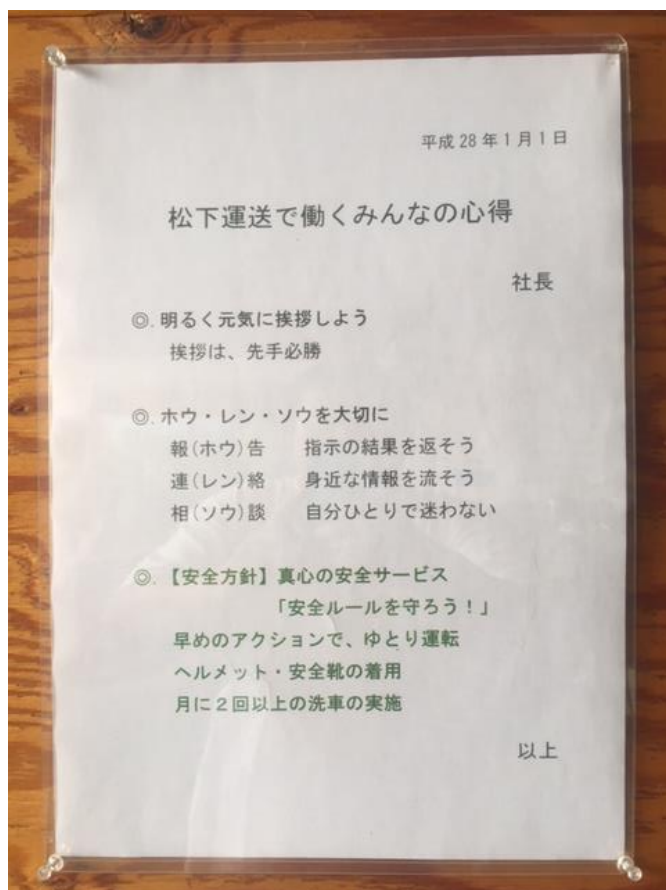
ここで、今までお話ししたような「音叉のように共鳴し合う人々のこころ」を謳った美しい詩句がありましたので、お伝えします。

作者は、昭和初期に29歳で早逝した詩人の八木重吉です。

素朴な琴

この明るさのなかへ
ひとつの素朴な琴をおけば
秋の美しさに耐えかね
琴はしずかに鳴りいだすだろう

ありがとうございました。





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 10 月号

「言葉」が大事

皆様 ありがとうございます。

今日は、私がいつも念頭に置いている「座右の銘」についてのお話です。
それは、乗務員の休憩室にある額縁におさめられている次の言葉です。

『 たった一言が 人の心を傷つける たった一言が 人の心を温める 』

私は日々の生活の中であって、この言葉を自らの戒めとし、人に対する言葉遣いの拠(よ)りどころにしています。

言葉は「諸刃(もろは)の剣」とは、良く言ったものです。使い方一つで、失意の人を慰めやる気を起こさせたりします。また、間違った言い方が災いし、相手のところを踏みにじり反感を買うこともあります。

さて、先頃私の心にとても爽やかな風が吹いた瞬間がありました。それは、リオ五輪の卓球競技の3位決定戦でのことです。団体女子ダブルス対シンガポール戦にあって、一回り年下の伊藤美誠さんに、あの福原愛さんが絶えず言葉を投げかけては励ましていた場面でした。声こそ聞こえませんでした。伊藤さんがミスしても「大丈夫！大丈夫よ！」、スマッシュが決まれば「いいね。この勢いで行こうね！」って、そんな言葉が、私の「こころ」には確かに届いていました。結果は、堂々の銅メダル獲得に寄与した勝利でした。あの時、伊藤さんの失敗に対し、「駄目じゃない、(ああた、こうだ)」なんて言っていたら、結果はおのずから違っていただと思います。

ところで、「泣き虫愛ちゃん」、かわいいですね。「泣いても萌える」(新聞報道)とは言いえて妙です。それはそうと、ご結婚おめでとうございます。末永く、お幸せに！

閑話休題。

「言葉」の思い出には、いろいろなエピソードがあります。中でも私の尊敬してやまない某社長も、言葉遣いの名人です。例えば、私が、とある会合に遅れてしまった時など「あなたが来る前に、ミーティングの予行演習をしていましたよ」とさりげと言って、気後れしている私をフォローしてくれたりします。そんな一寸した気遣いが、「温かいなあ」ところろに沁みてきます。その方への大きな信頼感にもつながります。

かと思えば、たまにですが、長年苦楽を共にした仲間を悪(あ)し様に攻撃して周りの顰蹙(ひんしゅく)を買っているワンマンの方などを見ると、これまでのお付き合いの気持ちがいっぺんに覚めてしまって、とても寂しくなったりもします。

また、此度めでたく「聖人」になられたマザーテレサの「言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になり、いずれは運命になるから」という金言にも、違った意味での多くの示唆(しさ)を受けています。

例えば、「苦しい・辛い」と言い続けていると、言葉が一人歩きして、もっと厳しい「現実」が襲ってくる。

「楽しい・嬉しい」と言えば、その言葉がいつの日か「その通りの形」で目の前に現れる。

私は今まで、沢山のそのような実例を見聞きしています。

「成功する人」は常に明るく、楽しい。

また、「人への悪口・愚痴・小言・非難などの言葉」は、「そう思っている」口に出して言わない。何故なら、その言葉は「相手」に届かないで、あるいはその方を素通りして、ブーメランのように自分に返ってきて、傷つくのはいつも「自分」です。

「そう」言った途端の「息苦しさ、気分の悪さ」が、もう既にそのことを証明しているように感じます。心の病気の多くは日頃使っている言葉が原因である、との精神医学の定説すらあるそうです。

ですから「自分のため」にも、マイナスの言葉は口にしない方が得策です。

それでも、失言や口が滑る等の落とし穴によくよく注意しながら、日々「プラスの言葉」を使うように心掛けています。

仕事は、毎日が多くのお客様・協力業者様・ご友人・従業員様との関わりの中で、「言葉の交流」を通してすべてがダイナミックに動き、進んでいます。

私は、ビジネス成功の最善の手段と断言していい、この「良き言葉」という最大の味方を大いに活用して、これからも日々精進して参ります。

ありがとうございました。





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 11 月号

私の勝手なリーダー論

皆様 ありがとうございます。

先日、とても面白い話しが、ある本に載っていました。

単身、アフリカ大陸の各部族長のポートレートを撮り歩いた写真家白川由紀さんの経験談でした。それら部族のリーダー達は、年齢も服装、体格もそれぞれバラバラで類型がないようでありながら、紹介される前に、「この人がリーダー！」と、すぐに分かったそうです。何故ならば、「その人」が現れると、人々が「嬉しくて、たまらない顔をするから」でした。

「人々を笑顔にすること。これこそ、リーダーの第一条件」と彼女は締めくくりました。

私は、この話し、当たってるなあ、と思いました。

それで思い出すが、私にご縁を頂いた数多くの社長様方でも、特に立志伝中の人物として名高かった A 社長のことです。

既に大社長でありながら、未だ駆け出しの新米社長の私にも、いつも優しい、こぼれる様な笑顔で接してくれました。お話し頂く内容は正に縦横無尽、ビジネスについて語られていたかと思うと、急にギャンブルのことに飛んだりして、また、めったにない軽妙洒脱な語り手で、お会いできるのが本当に楽しみでした。

当然、A社長の登場を待ち受ける人たちは、どこにあっても「笑顔・笑顔」で迎えていました。

それでも、たまに商売上の無礼な理不尽に対して「怒ったとき」のコワさは際(きわ)立っていたのですが、私はついぞ、そんな場面に出会わなかったことがとても幸いでした。

また、ご商売に対する目利(めき)きが物凄かったのも、記憶にあります。先見の明というか、今日のご繁栄の礎(いしずえ)となるビジネスチャンスを一早くキャッチされ、ここぞと思うやいなや迷わず即実行の決断力には、失礼ながら「希代の勝負師」と陰ながら呼ばせて頂いておりました。

90歳を過ぎてもなお現役の経営者として、ご自身ならではの人生を貫かれました。

胆力・実行力・指導力・直感力・ユーモア・思いやり・神仏への尊崇の念・長けたアイデア・新しもの好きなど、どれをとっても破格な力量の持ち主でした。そうそう、異性にも大変人気がありだったとか。飾らない、ざくばらんなお人柄ならではの逸話です。

ご生涯を自分に正直に「生地(きじ)のまま」で全うした、稀有(けう)のリーダーでした。

そう言えば、人の気持ちを思いやることに長(た)けていられたことで思い出すが、いつも何かにつけて、気軽に頂くタイミングのいい電話でした。

今で言えば、「メルめめ」というのでしょうか。とかく、男女の仲ではあまり評価されないようですが(「メールが、めめ」なのは、浮気性とか。全く根拠がありませんが(笑)・・・)、今日のビジネス世界では、ここぞという時の感謝の言葉、ねぎらいの気持ちをお伝えするに

は、欠かせない手段であると思います。仕事の疲れや悩みが、1 通のこころのこもったメールで癒されることがよくあります。

タイミングの良いグッド・メールは、良きリーダーの持ち味の一つかも知れません。

A社長についての数々の思い出は、まだまだ語り尽くせないことばかりで、私の稚拙な文章力ではとても表し切れません。

頂いたご縁のことは、今でも忘れず大事に胸に納め、心から感謝しております。

本日の「勝手なリーダー論」は、私の「理想のリーダー像」でございました。

ありがとうございました。





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 12 月号

いきさき 行先を示す「全体会議」

皆様 ありがとうございます。

今回は、社内で開催している「全体会議」についてのレポートです。

「松下運送の全体会議」は「会議は短い程、少ない程いい」という、世間一般でいうところの「会議」とは少し違います。

運送会社の常で、それまで乗務員が一同に会する機会がなかなか無いのが実情でしたが、数年前から年に4回、第 5 土曜日の半日又は一日を使って行われる「全員参加」の「全体会議」を行うようになり、手前味噌になりますが、これにより「社内の風通し」が良くなったとつくづく思います。

十人十色が世の中の常であることを踏まえ、同じ会社集う仲間が一同に会する場をつくり、お互いの交流を図ることで相互理解を深めたいと以前から願っていました。

ですから会議とは言え、そこでは大小のテーマを皆で協議するというより、顔を合わせることの効用、会社の行先を示す情報の共有化、「真心の安全サービス」の向上や乗務員の様々な力量アップ等に関する講習に主眼を置いたものとなりました。

ここで、過去3年間の各講習を調べると、当然ながら多くの内容は、今、松下運送が心血を注いで実現を目指している「3大テーマ」に則しているものでした。

○グリーン経営認証取得

H26 年度 【エコドライブ】【自動車リサイクル法】【NOXPM 法】

H27 年度 【廃棄物処理法】

H28 年度 【神奈川県条例(ディーゼル車規制)】【省エネ運転のための乗務員教育】

○G マーク認定取得

H27 年度 【G マークの認定取得を目指す】【交通事故を起こさないために】【事故削減を目指して】【交通事故防止の為に KYT】

H28 年度 【安全運行のための乗務員教育】

○真心の安全サービス

H26 年度 【社会を構成する一員として】【夢を叶える為に】【父を語る ・ 自分の背中を押す 6 つの仕掛け】

H27 年度 【21 世紀においての報徳思想】【救急蘇生法講習】【安心感・信頼感・自信[顧客対応力]】

H28 年度 【救急蘇生法講習】【健康管理について・血圧測定と健康診断】

そして、本当にありがたいことに、これらの講師として、私にとってかけがえのない大事なご友人である社長様方や変わらぬお力添えを頂いている協力業者様が、会議の趣旨に賛同して頂き、手弁当で駆けつけてくれたことが嬉しく、ここから感謝致しております。

今、このことを省みても、多くの方々の温かいお支えがあつての松下運送であることに、改めて万感の思いがこみ上げて参ります。

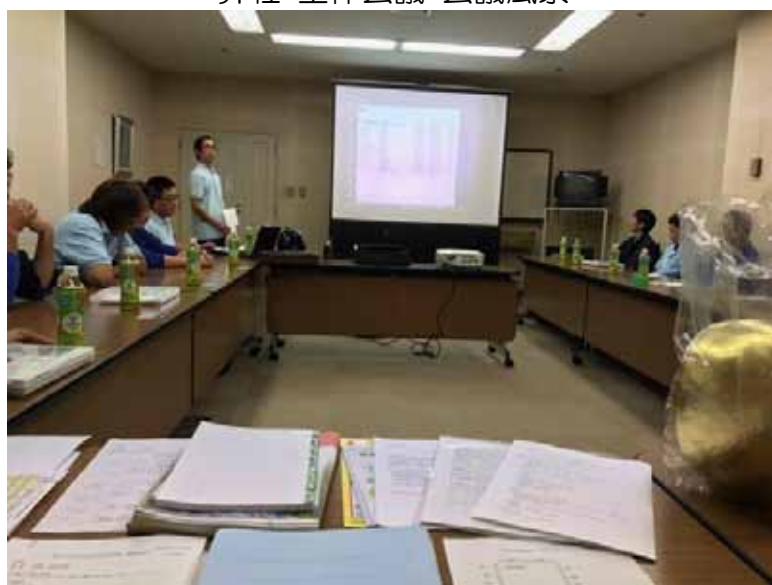
ありがとうございました。

H28 年 10/29

新たに、コンサルティングをお願いしている看護師さんによる健康相談



弊社 全体会議 会議風景





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート新年号

新年のご挨拶と決意表明

新年 明けましておめでとうございます。

新年を寿ぎ、皆様のご多幸とご健勝をこころよりお慶び申し上げます。

皆様 ありがとうございます。

輝かしい年明けにあたり、一言述べさせていただきます。

丁度1年前、皆様に松下運送の将来についての「ささやかなトリプルスリー」の実現をお伝えしました。

まず、第一の課題としては、人身事故・対物事故・物損事故の根絶を目指し、会社の安全管理の徹底をより一層進めるために、「安全性評価事業（G マーク）」の認定取得を目指した取り組みでした。

お陰様をもちまして、年の瀬も押し迫まった12月15日に「認定」の2文字を全国トラック協会のウェブサイト上に見出した時は、正直安堵のため息が出ました。

「運行管理の徹底」「運行前点検の厳守」「乗務員教育の推進」「危険予知訓練の実施」等これまでの社内体制を根底から刷新する取り組みが審査機関によって認められた結果でした。

これは、前号でもお伝えしたように、大事なご友人や関係会社様の温かいお力添え、従業員様の安全運行への熱意の賜物に他なりません。

本当にありがとうございました。

そして二番手は、3年前に認証を取得した「グリーン経営」の更新審査をクリアすることでしたが、こちらも昨秋の10月20日に交通エコモ財団の厳選な審査を通過しました。

これからは、一運送業者にあっても環境保全と省エネを通して、地球規模での自然破壊の防止の一翼を担う気概と活動が、正に喫緊（きっきん）の課題です。

私達の燃費向上への取り組みが、回りまわって自然保護に結びつくことを固く信じて、これからも進んで参ります。

そして、以上の「安全とエコの徹底」と合わせもって行う「お客様へお届けするまごころの安全サービス」が第三の目標です。

30年前に中古の軽自動車1台、携帯電話1つだけで始まった松下運送は、お届けするのは「お荷物という名の【まごころ】である」という一途（いちず）な信念でここまでやってきました。

これが「マツシタの屋台骨」です。

時が移り、人が変わることがあっても「松下運送」の看板がある限り、この【まごころ】という四文字の下（もと）に人が集い、お客様に喜ばれる運送屋であり続けていく覚悟です。

以上をもちまして、松下民雄の新年の決意表明とさせていただきます。

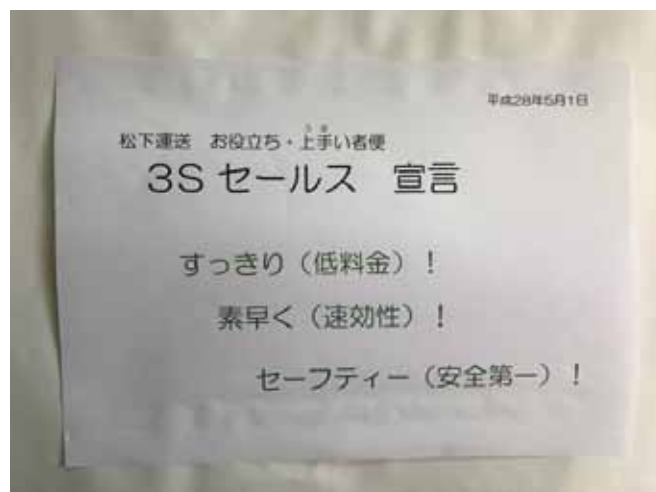
ありがとうございました。



グリーン経営認証登録証



松下運送の【まごころの安全サービス】を標語にまとめた
松下運送お役立ち上手（うま）い者便 3S セールス宣言





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート 2月号

箱根駅伝への思い

皆様 ありがとうございます。

今し方新春恒例の「箱根駅伝（第93回）」を観終わり、いつにも増して大きな感動を覚えました。

母校と仲間の名誉をかけ、団結の印（しるし）の「タスキ」をつなぐために、ひたすら渾身の走り続ける選手たちをみるにつけ、様々な感慨がよみがえります。

結果、下馬評通りの青山学院大学の総合優勝には、不断の努力による見事な成果と、ここから拍手を送ります。

さて、今回の「箱根」で観られた沢山のドラマでは、とりわけて復路の平塚中継地点で無念の繰上げスタートに泣き崩れる選手に、眼がしらが熱くなりました。「タスキをつなぐ」という一途な思いが途切れたくやしき、情けなさに身悶えする姿には、別な意味での特別な思いに胸が詰まりました。

それは、私がかつてご縁を頂いたご友人の方、不幸にも道半ばにして病に倒れ、事業が頓挫し、突然の不運に嘆くそれらのご様子とどうしても重なって見えてしまうのが、正直な気持ちでした。

そこには、多くの障害に耐え、乗り越え、自分の生きてきた証（あかし）を将来につなぐという「生きる意味」への大切な思いが、どうしても浮かんでくるからです。

そして改めて今、創業以来の30年の日々が正に「松下運送というタスキ」を抱えて走り続けた「走路」であったように思われてなりません。

穏やかな日ばかりではありませんでした。時には横なぐりの雨に打たれ、極寒に震え、炎天下の中での「レース」を余儀なくされました。

それは、以前にも触れましたが、事業展開の最中に幾度となく訪れた「経営存続の危機」を乗り越えることでもありました。

但し、「箱根」と違う点は、初めは私一人で走り始めましたがすぐに家内が、そして息子やまた多くの乗務員さんが共に走り続けたことですが、やはり「松下運送というタスキの重さ」は常に私一人の肩にかかっていたので、文字通り命懸けで走り続けました。

もし、私が走り止めたら「駅伝」はそこでオシマイ。繰上げスタートの無い、厳しいレースでした。

それでも「沿道」からは絶えず、お客様や協力業者様、ご友人の方の懸命なご声援を頂き続

けた長距離走でした。

それら多くの方々の温かいお支えがあつての「今」を、片時も忘れたことはございません。

本当にありがとうございました。

さて、私のレースも目の前に「中継地点」が見えてきました。

そろそろ「タスキ」を受け渡す準備をしなくてはなりません。

「新しい走路」には「それに見合った走り方」が必要です。

幸いにして「タスキの受け手」も、準備運動を兼ねた走りで「中継地点」に共に向かっています。

それでは本日はこの位にして、「受け手のこと」「中継地点のこと」は次号でお伝え致したいと思います。

ありがとうございました。

以上





松下運送有限会社

松下民雄の【毎日が ありがとうございます！】

タミオレポート最終号

創立 30 周年記念式典によせて

皆様 ありがとうございます。

前号にてお伝えした「箱根駅伝」になぞらえた「松下運送というタスキ」を抱えて走り続けた「私の箱根」は、本日をもって中継地点という名のゴールとさせて頂く事になりました。

改めまして、今まで絶え間なく力強いエールをお送り下さいましたお客様・協力業者様・ご友人の皆様の温かいお支えにこそより感謝申し上げます。

そして私にとって正に感激の極みは、この小式典にそれらの皆様がこそってお運び頂いたことでございます。

ありがとうございました。

さて本日はこの「中継地点」において「松下運送のタスキ」を、大恩頂く皆様の御前にて「新しい走者」に受け渡したく存じます。

タスキの受け手は、子息の弘樹でございます。

内輪の話しになりますが、弘樹は小学生の頃より全国を走り回る私のトラックの助手席にちょこんと座り始めてより今日迄、常に松下運送にあって行動を共にして参りました。

実は学校を卒業する間際、それまでの「京都の老舗料亭で板前修業をするという本人の希望」を突然翻（ひるがえ）し「僕はオヤジに習ってトラックに乗る！」と言いだした時は、正直驚き、戸惑い、そして幾ばくかの喜びがあったことを思い出します。

まだまだ親として経営者としての指導の最中ではありますが「新しいレース」には「新しい走り方」が必要であると考え、思い切って決めさせて頂きました。

もとよりまだまだ修行中の若輩者でございます。

私が皆様から頂いた数々のご厚情を、引き続き弘樹にも賜ります様こそよりお願い申し上げます。

何卒よろしくお願いいたします。

思い起こせば半世紀以上前、星雲の志をもって故郷鹿児島を出でてよりこの方、多くの方々との出会いに恵まれ、幾多の困難を乗り越えてこの場に立たせて頂いたわが身の幸せを思い、今は唯々（ただただ）感謝申し上げますのみでございます。

皆様 本当に ありがとうございました！



編集後記

平成 27 年 4 月さしたる思いのないままに、日常のよもやま話を綴り始めた「タミオレポート」でしたが、その内お届け先から激励のお言葉や嬉しいご感想を頂くようになりました。

今思えば毎号の執筆を通し、私自身が自らの半生を振り返るよい機会となり、それがまた将来への大きな展望に結びついたように感じます。

また、父母を初め、ご縁を頂いた全ての皆様から愛犬愛猫に至るまで、如何に多くの有縁機縁に守られ支えられた半生であったかと、つくづく大きな感慨にひたっております。

今月号をもって「タミオレポート」は一区切りとさせていただきますが、また新しい内容にて皆様にお届けすることも視野に入れております。

この2年間のご愛読に、こころより感謝申し上げます。

ありがとうございました。

松下民雄

MATSUSHITA
EXP